

平成 2 1 年 4 月 1 日

平成 2 1 年度 コンビナート連携石油安定供給対策事業（補助事業）  
の選定結果について

石油コンビナート高度統合運営技術研究組合  
( R I N G )

石油コンビナート高度統合運営技術研究組合は、このたび経済産業省からの補助金に係る平成 2 1 年度「コンビナート連携石油安定供給対策事業」について、補助金交付対象となる事業を選定しました。公募期間中（平成 2 1 年 2 月 3 日から 2 月 2 7 日まで）に応募があった事業を対象として、組合内に設置した学識経験者等の有識者からなる審査委員会の厳正な評価及び審査を経て決定したものです。

詳細は、下記のとおりです。

記

1 . 事業概要

コンビナート連携により、石油精製業を中心とするコンビナート域内外の連携設備の効果的設置による拡大融合を促進して製油所の競争力を強化するとともに、石油資源の有効活用を図り原油処理量を減らすことを通じ、エネルギーセキュリティを確保するための事業について必要経費を補助します。

( 1 ) 対象事業と実施期間

- ・対象事業：原油処理量の削減、製油所における主要製品の製造コストの削減等、各地区石油コンビナートの特長ある展開を目指す事業
- ・実施期間：平成 2 1 年度の単年度事業、又は複数年度事業

( 2 ) 対象事業者

石油精製業同士、又は石油精製業と連携した業種で構成する複数事業者を対象

( 3 ) 補助率

補助対象経費の 1 / 2 を限度に補助

## 2. 補助対象事業の選定

審査委員会において、応募書類を評価項目に基づいて審査し、補助対象事業を選定しました。なお、審査に当たって、必要に応じて応募事業者への直接の聴取や現地調査を実施しました。

### (1) 審査委員会メンバー

委員長 橘川 武郎 一橋大学大学院 商学研究科 教授  
 委員 菊地 英一 早稲田大学理工学術院 応用化学科 教授  
 委員 角野 然生 経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部 石油精製備蓄課長

### (2) 審査に係る評価項目

以下の評価項目に基づいて、審査しました。

区分	評価項目	評価基準	
		基礎点	加点
1.政策的意義	補助事業目的との合致	応募事業が補助事業目的、趣旨に合致している	石油安定供給、特長あるコンビナートの展開等への貢献度
2.事業内容	効果：原油処理削減量	原油処理量の削減が見込まれる	原油処理削減量の大きさ
	効果：単位事業費当たりの原油処理削減量	単位当たりの原油処理削減量が算出できる	単位事業費当たり削減量の大きさ
	効果：製造コスト低減率	製造コストの低減が見込まれる	製造コスト低減率の大きさ
	費用対効果	費用対効果が算出されている	単位事業費当たり製造コスト低減額（付加価値向上額）の大きさ
	投資回収の適正性	-	適正な投資回収と補助金の効果
	CO2排出削減量	-	CO2排出削減量の大きさ
3.将来性	工事計画の确实性	工事計画が示されている	工事計画の妥当性
	将来像の明確化	将来像が示されている	将来像の明確さ及び目標の高さ
4.経営方針	ロードマップの策定	ロードマップが策定されている	実現の可能性の高さ
	応募事業の位置付け	経営方針において、応募事業の位置づけが明確である	経営方針における重要度の高さ
5.地域説明・理解・協力	説明・理解・協力	地方自治体等で説明し理解が得られている	地域の理解・協力度合い

### 3. 補助対象事業の選定結果

今回、予算の範囲内において以下の3事業が選定されました。これらの事業は、コンビナート連携により、石油精製業を中心とする連携設備の効果的設置を行うことで、石油資源の高度利用を図り原油処理量を減らすことを通じ、エネルギーセキュリティを確保するとともにコンビナートの競争力強化に寄与するものです。

平成21年度の選定された事業に対する補助金予算は、17億円(業務管理費を含む。)です。

番号	事業の名称 事業者名、事業期間《実施場所》	実施内容
1	コンビナート水素回収・燃料連携事業  ・(株)ジャパンエナジー、出光興産(株) ・平成21～22年度 《愛知県 知多地区》	ジャパンエナジー知多製油所で自家燃料としている水素を回収・高純度化し、出光興産愛知製油所へ供給する。また、これにより不足となる自家燃料を補うため、出光から分解重油、ブタンを供給する。このための設備を設置することで、水素製造装置の稼働低減、分解重油の有効活用ができ、原油処理量削減、石油の安定供給が図れる。
2	コンビナート間のブタンおよびブチレンの供給・受入配管の新設事業  ・富士石油(株)、住友化学(株) ・平成21～22年度 《千葉県 千葉地区》	富士石油袖ヶ浦製油所で生産されるブタンおよびブチレンを、住友化学千葉工場のエチレン原料として供給するための配管および関連設備を設置する。これにより、流動接触分解装置を有効に活用することが可能になるとともに、エチレンプラントを効率的に操業することができ、原油処理量削減、石油の安定供給が図れる。
3	コンビナートナフサ供給連携事業  ・出光興産(株)、三井化学(株) ・平成21～22年度 《千葉県 千葉地区》	出光興産千葉製油所・千葉工場および三井化学市原工場で使用する原料ナフサを共同で調達するための設備を設置する。これにより、フルレンジナフサ、ライトナフサの有効な活用ができ、製油所における白油増産、石化工場におけるオレフィン収率の向上が可能となり、原油処理量削減、石油の安定供給が図れる。

#### 4. 総評

本事業は、平成21年度に経済産業省資源エネルギー庁において創設されたものであり、公募事業として補助対象事業者の選定にあたっては、公平性・透明性を基本として審査を行ったものです。

審査委員会では、前述の評価項目に基づき審査を行いました。

選定された全ての事業について、この評価項目が満足されており、本事業の目的とする、石油資源の高度利用を図り原油処理量を削減することを通じ、エネルギーセキュリティを確保するとともにコンビナートの競争力強化に寄与することを確認しました。

なお、特記事項は、以下のとおりです。

コンビナート連携事業は、エネルギーセキュリティの確保に向けた効果が早く出るものを優先しています。

選定された事業は、コンビナートの複数事業者の連携により、水素を回収・高純度化するとともに輸出せざるを得ない分解重油を有効活用したり、副生C4留分の石化原料化により流動接触分解装置の有効利用ができたりすること等により、石油資源の高度利用を図り原油処理量削減、石油の安定供給に寄与するものです。今回補助金対象事業となるものの原油処理削減量の総量は、約10万kl/年以上になることが見込まれています。

我が国で余剰傾向にあり輸出せざるを得ない重質油の活用や、コンビナートのナフサ供給に係る連携により原料調達面での安定供給・最適原料の確保による白油化を実現していくことは、今後、応募地区のみならず我が国の各地区コンビナートへの波及も期待できるものです。

選定された補助対象事業は、いずれも2年以内に連携設備の設置が終わり、直ちに原油処理の削減効果を生み出すことができるものです。また、コンビナート連携設備の設置に関する計画内容が詳細に詰められており、将来像が明確で、かつロードマップが確実に策定されております。

今後、選定された事業が、各事業者において着実かつ効率的に遂行され、目標とする効果が確実に達成されることを確信しています。

また、コンビナート連携のこのような取組みが、今回応募のなかった地区においても、その特性を活かして数多く起案され、さらにエネルギーセキュリティを確保するとともにコンビナートの競争力強化に寄与していくことを大いに期待するものです。

以上